

～all グリーンヒル淳風で目指す地域貢献～

グリーンヒル淳風

【はじめに】

グリーンヒル淳風の各事業所では、地域にある施設（事業所）として何ができるのか、地域との共生を目指して、関係者と協働している取り組みがある。地域との連携を通じて喜びを共有できる成果がある一方で、失敗の繰り返しや新たな課題に直面する場合も多い。

今回は様々な取り組みの紹介とともに、私たちが感じた課題と今後の方策について報告する。

【取り組み】

- ① 緊急時安否確認（かぎ預かり）事業
 - ・ かぎ預かり施設としての協力
 - ・ 圏域施設との連携
- ② 寝屋川市介護予防事業「気軽に元気アップ講座」の開催（寝屋川市からの業務委託）
 - ・ 高齢介護室、地域包括支援センターとの協力開催
 - ・ 受講者 8 名。全 12 回開催（延べ 82 名参加）
- ③ 生活困窮者就労支援
 - ・ 社会福祉協議会を通じて 2 名の受入れ
 - ・ ケアハウスでの職場体験
- ④ 東校区会食会サロン
 - ・ 東校区福祉委員主催の昼食会参加
 - ・ 参加される地域高齢者との交流
- ⑤ 中学生の職場体験
 - ・ デイサービスでの受入れ
- ⑥ 緊急時受入れとしての対応
 - ・ 虐待による緊急受入れ
 - ・ 台風による家屋被災者の避難受入れ

【考察】

- ① 地域連携としての効果
 - ・ 職員が地域活動に参加することで、地域が施設に何を求めているのか、また施設として地域にどう貢献できるのかを考える機会となる。
 - ・ 地域で生活される方々との交流のなかで、地域にある施設を知っていただく、身近に感じていただくことにより、地域側から施

設への協力要請も増えてくる。

- ・ 各種の職場体験受入れでは、様々な年代の方がご入居者と交流される。ご入居者にとって楽しみを感じることも多く、職場体験者には高齢者の想い等を知っていただく機会となり、互いの理解を深める場となる。
 - ・ 様々な事情を抱えての緊急受入れケースでは行政、地域関係者、施設が連携のうえ対応。緊急受入れでは職員の不安も多いが、施設が地域から必要とされている現状を実感。
- ② 地域連携における課題
 - ・ 地域においてケアハウスの知名度、特色が浸透されていない現状。
 - ・ 立地条件、利便性の悪さから、地域住民が気軽に訪問できない現状。
 - ・ 職員数が少ないことから、通常業務以外でなかなか地域へ出ることが難しい人員的な問題。
 - ③ 今後に向けた方策
- 『all グリーンヒル淳風大作戦！』
- ・ 事業所単位での地域活動だけではなく、各事業所職員にも協力を呼びかけて、互いに協力し、グリーンヒル淳風として地域に出て行く職員を増やす。
 - ・ かぎ預かり事業では在宅部門の事業所とも連携を強め、高齢者が自宅で安心して生活できる環境と事業推進に協力していく。
- ④ 最後に

グリーンヒル淳風では、継続して地域ニーズの把握に努め、施設としての社会資源を如何に地域に還元できるか具体的に考え提案して地域との関わりを継続していきたい。